

# 神奈川県アイスホッケー連盟

## 2017年度（平成29年度）代議員会

### 議 案 書

日時：2017年6月25日 18：00 受付開始

18：30 開 会

会場：神奈川県立スポーツ会館

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 第1号議案 | 各委員会の報告および今後の方針             |
| 第2号議案 | 2016年度（平成28年度）決算報告および会計監査報告 |
| 第3号議案 | 2017年度（平成29年度）予算（案）         |
| 第4号議案 | 県連役員の改選について                 |
| 第5号議案 | 新規チームの加盟について                |
| 第6号議案 | 県連規約の改正について                 |
| 資 料 1 | 2016年度（平成28年度）事業報告          |
| 資 料 2 | 2017年度（平成29年度）事業計画          |
| 資 料 3 | 登録者数推移                      |
| 資 料 4 | 2016年度 レフェリー派遣一覧            |
| 資 料 5 | 神奈川県アイスホッケー連盟 規約            |
| 資 料 6 | 2016年度 役員体制（現行）             |
| 資 料 7 | 第72回国体 及び その他神奈川県代表選手       |
| 資 料 8 | 懲戒処分一覧                      |

## 第1号議案 各委員会の報告及び今後の方針

### はじめに

加盟チーム代議員の皆さん、一年間、各事業に協力していただき感謝申し上げます。また、オフィシャル担当、レフェリー団、施設関係者、保護者の方等のご協力にも感謝申し上げます。

いよいよ、来年1月末に神奈川県内二つのリンクを使い、アイスホッケー国体が開催されます。皆さんの助けを借りながら、無事開催できるよう応援をお願いいたします。

#### 【強化事業】

事業計画に沿った強化事業も無事終了しました。本年度も選手所属チーム指導者のご協力を仰ぎ、ジュニア強化・国体強化を進めていきたいと思っております。また、ご理解ご協力していただいた選手・保護者・強化スタッフの皆様にはお礼を申し上げます。

強化事業にあっては、担当者に大きな負担が掛る現状は今年度も変わらず、次世代を担う選手育成のためには、多くの強化担当者の育成も必要となり、加盟団体の皆様のご協力もお願いするところです。

#### 【国体について】

第72回冬季国体は長野県で開催され、成年、少年共に本大会に出場し、総合5位という結果を残しました。今年は神奈川地元開催として、好成績を残せるようしっかり準備し、大会に臨めるよう連盟として強化してまいります。

また、神奈川県で開催するにあたり、新横浜スケートセンター、横浜銀行アイスアリーナ、県体協他関係機関と準備を進めております。大会運営には、オフアイスオフィシャルをはじめ、多くのスタッフのご協力が必要です。加盟団体の皆様のご協力をお願いします。

#### 【日ア連事業】

毎年アジアリーグを開催し、多くのファンに楽しんでいただいています。毎年4試合を開催しておりますが、より多くのゲームをアイスホッケーファンに観戦していただけるよう努力してまいります。

アイスホッケーファンを拡大するとともに、日本の最高峰のゲームを目の前で見るとはファンにとっても喜ばしいことであると考えます。今後もアジアリーグ運営委員会には新横浜開催数の確保をお願いして参ります。

スタッフの皆様の多大なるご協力に感謝申し上げます。

#### 【普及関連事業】

U9 小学生低学年の試合形式はクロスアイスになり、ゲームの展開が早く、観客が楽しめるゲームとなりました。リンク事情により練習環境は厳しいですがレベルアップを図っているところです。練習時間、試合時間等にはご父兄、スタッフなど関係者のご支援・ご協力を頂き、当連盟として皆様に御礼申し上げますとともにご厚情に感謝申し上げます。

### 1 総務委員会 登録業務に関するまとめ

2016年度の県連登録者総数は1,592名でした。※資料3【登録者数推移】参照

これは、2015年度に比べ73名の増となっています。

アイスホッケーは、チーム役員、選手とも若干の増となっています。インラインでは役員、選手ともほとんど変わらない状況となっています。

各カテゴリーで微増・微減と、ほとんど変化がなく、減少傾向に歯止めがかかったとは評価できない

状況と考えます。

インラインは大会開催期間が5月から7月であり、2016年度の登録は1種:2チーム、7種3チームで変更なし。魅力ある活動を目指す必要に迫られていると考えられます。

今後も、選手で2,000名を越える県連にしていくよう努力を続けていきます。

1999年度以降、神奈川県で登録した選手・役員の情報を蓄積しています。個人情報管理する部署として守秘義務等、十分な配慮を行って処理しています。

## 2 医事委員会

日体協公認スポーツドクター養成講習会等に積極的に取り組み、専門ドクターの養成とケガの防止に力を入れています。

練習中・試合実施時のけが等に備え、県連各委員会主管の大会要項でスポーツ障害保険への加入を明記するとともに、3種・4種・7種チームは加入を義務とし、大会参加申し込み時に写しを提出することとしました。

## 3 会計委員会

- (1) 各委員会別に予算を配分し、それに基づいた予算支出の総合管理は引き続き有効に機能しています。現在の予算枠残高は各委員会担当理事により、その用途管理が行われています。会計委員会は支出される内容が会計規則に則って正しく運用されているかを確認し、また、各チームの協力を得て収支を改善し、財務の適正管理を行っています。
- (2) 2016年度も、アジアリーグは4試合のみで推移しました。神奈川県連としては、主管委託手数料収入は大きな収入源になります。2017年度はオリンピックあり、スマイルジャパンも出場を決めているので、日ア連と協力し大きな大会が増やせるように働きかけして行きます。
- (3) 会計処理(入金と支出)の日常的な処理および会計業務の正確且つ迅速な処理ができるよう体制を強化し、各チーム残高についても、月1回以上の更新を心がけます。

## 4 広報委員会

### (1) 広報委員会の活動

“正確な情報を迅速に”という基本理念のもとに、2001年10月20日に立ち上げ、2017年6月10日現在、トップページアクセス数は4,010,358件に達しています。

広報委員会では本ホームページは「連盟加盟者によって育まれるべき」という考えを持っています。みなさんからの情報投稿や写真(トップ画面に使用)の提供を強く歓迎いたします。

また、各チームにあっては、引き続き [www.kihf.net](http://www.kihf.net) を連盟からの重要事項の伝達手段として活用してもらうよう、定期的な閲覧と掲示情報の確認をお願いします。

### (2) 成果

県連加盟チームだけではなく、不特定多数の日本中の方々へ情報提供が可能となり、アイスホッケーファン拡大に効果を見せています。現在、県内各大会の試合結果は概ね翌日の午前中に、県外大会も遅くとも大会終了後早急な掲載を心がけています。

また、各チームへの周知事項をHP上で公開することにより今までは代表者へのe-mailでしか配信できなかった情報が代表者以外のメンバーにも伝達が可能となり、情報をより確実

に、チームに伝えることができるようになりました。

### (3) 課題

HP は情報が最新であり、確実なものであることが求められます。つまり、更新はタイムリーに行う必要があります。専従職員のいない広報委員会では、自身から情報を収集することができません。試合結果の迅速な更新はひとえにオフィシャル当番による正確で、すばやい送信が不可欠です。情報をタイムリーに HP に反映するためにも大会運営担当者、大会参加者の深い理解と協力をお願いします。

また、専門知識を持った人材が今現在、広報委員会には不足しております。県連登録者やその知人の方で、HP 運営にボランティアで協力いただける方の応募をお待ちしております。

一昨年度から若干のデザイン変更を行い、バナー広告欄を追加しました。まだ数ヶ所の空きがありますので、是非広告掲載の検討を宜しくお願い致します。

## 5 審議委員会・懲戒委員会

### (1) 審議委員会事項

審議委員会案件は 3 件あり関係者には注意を促したところです。3 件目の案件についてはゲームに関係したスーパーバイザー、レフェリー、両チームとも大会要項の確認ミスがあり、没収試合とするところ試合をしてしまった。本件、関係者からの事情聴取した結果、スーパーバイザーの判断を最終決定とし、試合成立として関係者に通知したものである。連盟役員、スーパーバイザー、レフェリー、各チームの代表者、監督等はチーム力の向上に力を入れるとともに、ルールの周知、オフィシャルの適切な履行をお願いいたします。

当連盟はスポーツ界における暴力行為等の根絶に向けてより一層の努力をしております。

また、県代表選手・選抜チームの編成等に当たって、経過及び結果について選手やチーム関係者と意思の疎通を図り、誤解の生じないよう十分な配慮を常に心がける必要があります。本年も理事会と関係者で共有できるよう努力・徹底していきます。

### (2) 懲戒委員会事項

横浜銀行アイスアリーナが建て替え事業を完了し、従前規模での大会開催ができました。

第 63 回神奈川選手権の終盤(4 月以降のゲーム)及び、第 64 回神奈川選手権・第 72 回国体神奈川県予選会で、通算 14 件の懲戒処分があり、チーム関係者等の指導、ルールの徹底について改めてチームでしっかり話し合っていたいただきたいと思います。

今後も選手はルールを守り、監督(ベンチ入り役員)は、選手に対するより一層の指導をお願いします。また、ルール変更に伴い、チーム内での指導を併せてお願いいたします。

## 6 強化委員会

### (1) 成年強化について

例年のごとく予算の少ない中、少ない練習回数で効率よい強化練習を目指し強化事業を実施しました。

代表メンバーとしては、今シーズンも社会人と日本体育大学・慶應義塾大学生を入れて臨みました。

昨年度は国体準優勝だったので、ブロック予選を免除され、本大会も初戦シードで2回戦からの出場になりました。

2回戦で兵庫県と対戦し第3ピリオド途中までリードを許す展開でしたが、最後に逆転勝できました。準々決勝で埼玉県と対戦し、逆に第3ピリオド開始まではリードしていましたが、最後に逆転負けを喫しました。

順位決定戦にまわり、1試合目で茨城県と対戦し勝利、5-6位決定戦でも前年3位の栃木県に勝利し、5位で終わることが出来ました。

来年度は神奈川県国体が開催されます。地元開催なので少しでも上位を目指せるように、例年より早めに始動し、準備をしたいと思います。皆様の応援を宜しくお願い致します。

## (2) 大学(2種)強化について

今年度は、5~6月に第37回春季大学リーグ戦を参加4校で横浜銀行アイスアリーナにて開催いたしました。

(神奈川大学、横浜国立大学、聖マリアンナ医科大学、東海大学医学部) 優勝:神奈川大学

また、10月に第66回秋季大学リーグ戦を参加4校で横浜銀行アイスアリーナにて開催いたしました。

(神奈川大学、聖マリアンナ医科大学、横浜国立大学、東海大学医学部) 優勝:神奈川大学

その他、連盟所属大学チームの県外活動では、当連盟が協賛する東京都連主催の関東大学リーグ戦と選手権大会に2校が参加しました。

関東大学リーグ戦 結果、

ディビジョンⅠB 5位 神奈川大学 (入替戦勝利 ディビジョンⅠBに残留)

ディビジョンⅢ 優勝 横浜国立大学 (ディビジョンⅡに昇格)

関東大学選手権 結果

Aグループ 13位 神奈川大学

Bグループ 9位 横浜国立大学

また、東日本医科学生総合体育大会(東医体)では2校が参加し、東海大学医学部がCリーグ優勝、聖マリアンナ医科大学がCリーグ2位の戦績でした。県外の戦績は、力を出せたチーム・出せなかったチームが出てしまいました。

現在、大学のカリキュラム変更に伴い、各校で部活動時期にズレが生じ、大会の開催時期の見直しが必要とされます。これまで続けて来た大会を一度白紙に戻し、今の時代に合った新しいタイプの大会を来年度から開催出来るよう模索中です。

また、昨今のチームの課題は選手数の確保で、各大学とも苦慮を続けております。競技人口を増加させるためにも、強化の一環として他府県連盟所属大学との交流戦を視野に企画して参ります。

## (3) 少年(高校生)強化について

“関東ブロック予選突破、そして国体優勝!”を目標にチーム作りを進めてまいりました。9月に開催されました国体県予選で優勝した武相高校を中心に、慶應義塾高校を合わせた2チームから25名の選手を選抜し強化練習を11月から行いました。横浜銀行アイスアリーナで練習3回、練習試合1回で予選に臨みました。練習試合は日本体育大学を招き、強化につなげました。結果は1-4で負けたものの戦い方のイメージを作ることができ、収穫の多い内容になりました。

甲府市で行われました関東ブロック予選は、リーグ戦で群馬県と山梨県に大差で勝利(10-1、17-0)しました。翌日、東京都との代表決定戦を行いました。失点を最小限に抑えて主導権を譲らないこと、さらに東京都はベンチ入り人数が少なかったため、第3ピリオドが勝負だと確認して戦いました。第1ピリオドは2PKより失点し、0-1で終わりました。第2ピリオドも均衡したゲームになりましたが、PPを生かし1点取り返し同点で第2ピリオドを終えました。第3ピリオドは想定通り試合の主導権を握ることができ、中盤に3連続得点を挙げ、4-1で勝ち、二年振りに本大会への出場権を獲得しました。

本大会は接戦が続きました。大阪府との1回戦は延長の末、4-3で勝ちました。続く2回戦の相手は栃木県でした。2PPを生かし先制しましたが、このリードを守りきれず1-2で敗れました。順位決定戦予備選では埼玉県と戦い、試合終盤の6人攻撃が成功しGWSまで持ち込むことができましたが、あと一歩足りず敗れました。7位決定戦は福岡県と戦い危なげなく8-1で勝利、第7位に入賞して大会を終えました。

今年のチームはブロック予選と本大会を合わせた平均失点が1.4点だったことから分かるように、GKを中心とした守備が上手く機能したという印象です。また、混合チームではありませんが雰囲気良く、しっかり纏まることができたことも良かった点です。さらに上位を目指すには、パワープレーをはじめとするセットプレーの精度を上げ、少ないチャンスを生かせるチームに仕上げていかなければなりません。オフシーズンの練習は各チームにて取り組むこととなりますが、個人スキルの向上を目標に取り組んで欲しいと思います。個人スキルがセットプレーの出来に大きく影響するため、スケーティングとパス・レシーブの精度を高めることが大切になります。

県内の各大会につきましては、国体予選以降は残念ながら新横浜ジュニアが部員不足により不参加となり、2チームでの開催となってしまいました。全国的に見ても高校カテゴリーの選手数は減っていると思われます。高校生チームとしてアイスホッケー界の発展にどのように貢献していくか、これも課題の一つです。

#### (4) ジュニア強化(小・中)/一貫指導強化委員会について

この年代は、育成に最も時間をかけ強化をする年代です。この年代の育成・強化が、高校・大学、そして社会人へのステップアップとしての重要な段階と位置づけられています。

強化の成果が早く出る年代(ゴールデンエイジ・一般的に小学4~6年生)と、そうでない年代(個性・個々人の成長期)があるということをコーチ陣が理解し、辛抱強く選手たちと関わって行かなくてはならないと感じています。

今年度も6月から3月までハマ銀アリーナで週1回の枠を確保し、小・中学生とも強化に取り組んでまいりました。

##### 【小学生】

JTB杯争奪第19回全国選抜アイスホッケー・サマー大会(北海道苫小牧市) 7位  
第12回風越カップ全日本少年アイスホッケー大会関東ブロック予選会(山梨県小瀬) 予選敗退

上記の結果、全日本少年には2年連続出場することができませんでした。関東近郊の都県との差が徐々に付いてきてしまっているように感じます。その差を埋めるには、県内選手の全体の底上げを、選抜強化で総合的に取り組んでいく必要を感じております。

##### 【中学生】

第 37 回全国中学校体育大会アイスホッケー大会関東代表決定戦(栃木県日光市)代表決定

第 37 回全国中学校体育大会アイスホッケー大会(岩手県盛岡市、花巻市) 1 回戦敗退

第 11 回全日本少年アイスホッケー大会(北海道釧路市) 10 位

中学生は 1 年ぶりに全国中学生アイスホッケー大会に出場をすることができました。結果としては、準優勝した八戸二中と初戦で対戦し 1 回戦敗退となってしまいましたが、大きな手ごたえを感じた大会でした。

全日本少年では予選リーグで 2 年連続札幌選抜と対戦し、3P 残り 5 分まで同点でしたが、最後に失点し、その後の順位戦でも本来の力を発揮できずに最終的には 10 位に終わりました。

小中学生に共通して感じられることですが、勝ちきれぬ試合、勝たなくてはいけない試合で最後まで集中力が続かない点が気になります。

来年度はいつもより早めにスタートを切り、氷上練習のみならず、陸上トレーニングも選抜事業として進めていきたいと思えます。

#### (5) 女子強化について

女子強化委員会としては、(小学生)ジュニアレディース長野大会優勝、(中高生)日光杯全日本女子中高生大会ベスト 4、(女子)全日本女子(B)優勝を目指して活動しておりますが、例年練習枠を確保する事が困難で、思うような活動が厳しい状況が続いております。

##### 【小学生】

ジュニアレディース長野大会は、千葉県 4 名・埼玉県 4 名・山梨県 5 名・神奈川県 4 名の 17 名で参加し、昨年度は全敗でしたが今年度は 2 勝する事が出来ました。

##### 【中高生】

第 11 回日光杯全日本女子中学・高校生アイスホッケー大会は、今年度より JOC 強化試合に指定され、大会の意義自体も大きく発展しました。群馬県 2 名・山梨県 4 名・神奈川県 9 名の 15 名で参加し、1 回戦青森県選抜戦は残り 7 秒で逆転勝ちをする、手に汗握る好ゲームでした。2 回戦の札幌戦では惜しくも 2 点差で惜敗し順位確定戦に進みました。順位戦では東京都にも勝ち 7 位と昨年より 1 つ順位を上げる事が出来ました。

##### 【女子】

全日本女子アイスホッケー選手権大会(B)に関しては、関東ブロック代表としてハセガワウィッチーズが出場し、1 回戦で軽井沢フェアリーズと対戦し、2 点差で 1 回戦敗退しました。

依然として選抜チームとしての合同練習の時間確保が厳しい状態に変わりはありません。また、競技人口の減少が見られ、他県との合同チームの模索も続けていかなければなりません。昨年までは小中高校生の強化に時間を費やしてきましたが、今年度からは全日本女子での上位進出をまず 1 番の柱に置き、神奈川県内の女子選手達が他都県に移籍しなくてもホッケーを続けていきたいと思える環境を作りたいと思えます。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

## 7 競技委員会

2016 年度の大会予定は、第 64 回神奈川県アイスホッケー選手権を当該年度中に完了させるこ

とし、期間途中で第 72 回国民体育大会神奈川県予選会を組むこととして実施しました。ハマ銀アリーナをメインの会場とし、新横浜スケートセンターで確保できた枠を従前は 1 部リーグのみに割り当てましたが、できるだけ公平に割り当てることを考慮して試合日程を組みました。新横浜スケートセンターのスコアボード操作はこれまで 1 部リーグのみが体験してきましたが、他の部でも操作を経験することになり、オフィシャル当番チームが操作を実践しました。

第 72 回国民体育大会神奈川県予選会は、A pool 8 チーム、B pool 32 チームで実施しました。実施要項の試合形式では「必ず勝敗を決する」とし、「3P 終了時同点の場合 GWS を実施」としていましたが、SV・レフェリーの判断ミスで「引き分けで終了」という状況が生じ、大会途中で要項の修正を行い対応しました。

2016 年 8 月末から 2017 年 3 月下旬の期間で第 64 回神奈川県アイスホッケー選手権を開催しました。40 チームの参加、1 部～5 部各 8 チームのリーグ戦として実施しました。没収試合は 2 回、いずれも人数不足によるものです。

また、「試合開始整列時プレーヤー 6 名・役員 1 名がいなければ不戦敗」と要項に明記していますが、「GK1 名+プレーヤー 5 名、合計 6 名で成立」と判断してしまった試合があり、試合関係者全員 (SV・レフェリークルー・オフィシャルチーム・試合当事者 2 チーム) が気付かず、最後まで試合を行いました。他の没収 2 試合との関係もあり、要項通り没収試合と考えましたが、県連審議委員会で審議した結果、「試合の成否については SV の判断が最終決定」との裁定となりました。

委員会として、要項記載内容を十分に理解していただき、間違った判断を回避できるよう関係者に努力していただきたいこと、要項の記載内容をわかりやすくする検討を行っていきます。

ハマ銀アリーナの貸し切り・F 枠 (22:30～24:00) を、ハマ銀アリーナの抽選会以前に県連として確保し、加盟チームに配分しています。2015 年 9 月 27 日と 2016 年 4 月 2 日に行った配分打ち合わせ会では、県連主催大会開催枠を先行確保し、空き枠を打ち合わせ会に参加した加盟チームに抽選で渡しました。大会枠・チームの練習枠が夜間・深夜帯に限られる状況で、少しでも加盟チームの利益につながるよう今後も継続していきます。

## 8 普及委員会

### (1) 小・中学生・女子の普及について

今年度は、秋の大会「横浜市長杯」を横浜銀行アイスアリーナで、土日の一般営業時間を貸し切り、神奈川スケートリンク時代を含めて初めての昼間大会開催となりました。

これは、相模原市銀河アリーナの平成 30 年度閉館予定と平成 30 年 1 月の国体開催を見据えて、貸し切り営業での大会開催をリンク側と共に経験し、問題点の抽出する重要な使命もありました。

特に、再整備当初から要望していた選手控室については、要望通りの 4 控室がないため、多目的室(会議室等)を活用せざるを得ず、ゴムマット養生が必要となり、前夜の用途変更作業に時間と人員が必要でした。

横浜市体育協会のご協力を得て、使用料の減免措置を頂きましたが、銀河アリーナとの料金格差は埋めることができず、利用者であるジュニアチームからは大会開催費の高騰に悲鳴にも近い違和感を覚える声もありました。

また、IIHF のスローガンである「Fair Play and Respect」の精神をジュニア選手や高校生に深く認識してもらえるよう、毎年安全指導講習会を開催しています。



これは、2012-2013 シーズンに起きた反則に基づく重大な負傷事故を踏まえ、ジュニアチームスタッフと保護者の皆様とともに立ち上がり、事故後翌月の開催に漕ぎ付け、以来 7 回目の開催になりました。

この講習会を通して、重篤な負傷事故も起こらず、現在に至っております。これも、多くの関係者の努力の賜物と、深く感謝申し上げます。

県連としては、より多くの児童の生活において、健全な練習時間帯を子供達のために確保すべく努力を続けております。

昨年度より始まった、横浜銀行アイスアリーナの毎週火・木・日曜日の D 区分(19:00~20:30)と E 区分(20:45~22:15)の貸し切り利用受託を、普及委員会で協議の上、毎週火曜日はジュニア強化(小・中学生)に、その他は各ジュニアチーム、女子チーム、高校生へ貸与しております。その集金・支払い業務を普及委員会で担い、所属チームのご理解ご協力の下、毎月末締め翌月 5 日払いを完全履行しております。

このことが、横浜市体育協会・横浜銀行アイスアリーナとの絶大なる信頼関係を築き上げていることをご報告すると共に、関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

現在、神奈川県においては 5 チームの小学生・中学生チーム、そして 3 チームの女子チームが活動していますが、実態としては合同チームを結成しなければ大会参加できない状況が続いております。



例年 4~5 月の「アイスホッケー体験」が開催できていません。少しでも多くの体験会を開き、選手の開発と育成に寄与して参ります。体験会で底辺を広げても実際に組織するのは各チームとなります。体験した子供たちがアイスホッケーを継続していく実績を積み上げ、このことを踏まえてチームとの意思疎通、県連 HP の活用を検討することなどを普及委員会の課題として取り組んでいきます。

今後も、県内競技施設の更新情報を見極め、大会開催会場の変更等を施設側と折衝して参ります。

## (2) インラインホッケーの普及について

2016年度の登録状況は男子登録 2 チーム(STIGA・maffick)、女子登録 3 チーム(Team SONIC・team maffick・peanuts)となり、チーム数などに変わりはありません。

2016年7月16～18日に開催されたJIHF インラインホッケー全日本選手権大会は、上記5チームが参加し、男子BプールでSTIGAが優勝、女子Lプールでpeanutsが準優勝、Team SONICが3位となっております。

神奈川は毎年全国大会にて上位に入賞しておりますが、フルリンクなどの設備がなく、活動が制限されている状況は残念なことではあります。

今後はチーム数の減少も予想されることから、普及活動・体験活動として保土ヶ谷スポーツセンターを利用したインラインホッケー体験教室を開催し、選手層の拡大を目指した企画をしていきたいと考えております。

## (3) オールドタイマーの普及について

県内の活動についてはオールドタイマーの登録チームが1チームしかなく公式戦はできず登録の緩和及び年齢を引き下げる等で、春の大会までやってまいりましたが、年齢を下げるリスク等の意見があり秋の大会は見送りました。

今年度は、2チームの登録情報があり、登録されましたら安全を優先し、健康増進に繋がる大会を検討します。

全日本オールドタイマー大会はスタート時45歳以上でしたが、もっと楽しく安全な大会にするため、4年前から50歳以上と60歳以上とに分かれ、昨年からは70歳以上の大会が開かれました。

第21回全日本オールド(O-50)は関東予選で敗退し、第4回全日本オールド(O-60)は、予選なく本戦へ出場しましたが、2回戦で敗退しました。

(O-70)についてはエキジビションの大会なので全国で2チーム作り、本県から5名参加しました。将来は(O-70)も本県から単独チームで参加できるよう努力します。

今後の活動についてはどのような形で活性化して行くか皆さんのご意見を戴き進めて行きたいと思っております。

最後に、全国的にアイスホッケー人口が減少して行く中、現役の皆さんが末永くアイスホッケーを続けていただき、年齢に達しましたらチーム作り及びメンバーとなることを切に希望します。

## 9 レフェリー委員会

平成28年度のレフェリー登録者は、前年に比べて減少の状況でした。アイスホッケーの認知度や人気の低さも有りますが、審判への魅力の無さが減少の大きな影響になっているように思われます。そのため各種大会への派遣状況も、レフェリーの高齢化も影響し年々人数が減っています。

そのため、レフェリーの技術向上につながる、見て来た事や覚えて来た事を展開することが少なくなり、県内大会においてジャッジのバラつきや解釈の違いなど、かなり見受けられているのが現状です。クリニックを開催しても全てをカバー出来る訳ではないので、若手の数を増やして県外大会に参加させることが急務だと考えます。

ハイブリッドアイシング導入から2シーズンが経ちますが、レフェリーのレベルや経験の違いから曖昧なジャッジになり選手やチーム関係者から文句を言われてしまうことが多いのも現状です。しかし、選手やチーム関係者もルールの解釈をしっかりと頂けないと、ルールの共有が出来ず

平行線のままで良好な関係が築けないと思われます。

選手やチームの関係者と良好な関係で試合を遂行出来ていない場合が多かった様に思います。双方の選手とレフェリー三者がフェアプレイとリスペクトをもって試合に望み、終わった後に勝った方も負けた方も「良い試合だった・・・」と言える様でないでと個々の試合レベルも上がりません。

そのうえで今回に限ったものではありませんが、試合に臨む選手の中には防具や装備品の不備が目立ちました。特にマウスピースの未装着が多く見受けられ、試合途中でラインズマンが両ベンチに通告をさせて貰うこともありました。レフェリー(主審)が言うてしまうとミスコンダクトで10分の退場になるので、ラインズマンに言わせていることを理解して下さい。

マウスピースや装備品は、ルール上試合に出る選手全員に対しての適用で、自分を守ることも含まれますので改めて再度確認していただくようお願いをします。レフェリーの仕事は選手の反則を取るのではなく、怪我をさせないために反則を取っているのです。

前年度の代議員会でレフェリー謝金の件でお願いをしましたが、一部適応範囲外の事例が出ましたので改めてですが、各カテゴリーの大会や練習試合で終了時間が 24:00 までに終わる試合については前回と同じ内容ですが、日付をまたいでの大会や練習試合は基本 24:00 以降開始と同等で深夜帯の適用でお願いします。

苦しい人材状況で大会などに臨んでいます。

皆様にご理解をいただけます様に何卒よろしくお願ひいたします。

## 10 日ア連事業について

### (1) アジアリーグアイスホッケーについて

2016-17 シーズンのアジアリーグは 12 月 24・25 日に国内 4 チームのミニ集結戦を行い、計 4 試合を新横浜スケートセンターで開催いたしました。

2017-18 シーズンの日程決定は 6 月以降になります。トップリーグの試合を 1 試合でも多く神奈川のファン見ていただけるように神奈川県連としてアジアリーグに働きかけて行きたいと考えております。

### (2) 第 5 回日本アイスホッケー連盟会長杯

第 5 回日本アイスホッケー連盟会長杯が東京都で開催されました。

神奈川県からは、関東ブロック代表としてチームハセガワ B とセントラルクリニック・サンダーバードの 2 チームが出場しました。

チームハセガワ B は苦小牧市役所と対戦し、本来のペースをつかめずに敗退しました。セントラルクリニック・サンダーバードは 1 回戦で対戦相手のトヨタ自動車北海道が棄権した為に不戦勝で 2 回戦に進み、香川アイスフェローズに接戦の末 OVT で負けてしまいました。

### (3) J-ICE について

昨年同様助成金のない状態で East Division は残念ながら開催されませんでした。しかし、North(北海道ブロック)、Central(東海・北陸ブロック)、West(近畿・四国ブロック)、South(中国・九州ブロック)は開催し、最終的に全国 1 位を決める Final は名古屋にて開催されることになりました。そこで、昨年度実績をもとに East 代表として神奈川県選抜が全額自己負担にて 3 月 18 日~20 日に名古屋で開催された Final に参加しました。一昨年度準優勝のシードにより 2 回戦で伊藤忠商事と対戦し、3P10 分過ぎまで 4 点差で勝っていましたが、最後 OVT にて逆転負けをしました。順位戦に回り、香川アイスフェローズと対戦し勝利の結果 3 位になりました。